茶ぐわ～ゆんたく 220

お茶を飲みながら、ぎのわんの歴史をのぞいてみませんか？

新年、明けましておめでとうございます。今年も市史編集事業にご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

幻の！？ 宜野湾市消防本部音楽隊

1976(昭和51)年1月6日午後2時、野嵩通信隊前の広場で市消防本部恒例の出初式が行われ、この席上で消防音楽隊がデビューしました。

▲市消防音楽隊の初披露
1976(昭和51)年1月6日出初式

17人で発足した市消防音楽隊は、職員の連帯と市民の融和を図ろうと結成されたものでした。発足自体は1975(昭和50)年の10月で、音楽とは無縁だった消防士の方々が、講師の指導のもとから勉強して練習を重ねたそうです。

練習が軌道に乗ると、楽器を自己負担で購入する隊員もいたそう。当時の市報によると「この日、まだ数少ないレパートリーではありますが君が代行進曲など晴れがましく披露、参席した人々の拍手をあびました」とあります。その後も消防音楽隊は活動を続け、出初式での演奏はもちろん、県の消防大会や、宜野湾まつり(現在のはごろも祭り)でも演奏を披露していました。

市報を確認した限りでは、1983(昭和58)年の出初式を最後に記事が見当たらなくなったため、この頃には活動を休止したと見られます。

▲県消防団ポンプ操法大会での演奏
1976(昭和51)年

問 市立博物館 ☎870-9317

ぎのわんの歴史・文化遺産を歩く！ 其の64

今年度の「宜野湾の歴史・文化遺産を歩く」では宜野湾市に残る「歴史の道」について紹介してきました。前回は宇地泊から真志喜に残る中頭方西海道の痕跡を探しましたが、今回は石灰岩台地上に南北に延びる普天満参詣道の痕跡を探してみましょう。

普天満参詣道は首里から浦添の安波茶橋、当山の石畳道を通り嘉数ティラガマから真栄原を抜けて、佐真下から現在の普天間飛行場内を通り野嵩から普天満宮に向かうルートです。元々は集落間を結ぶ生活道でしたが、1644年以降、国王による普天間参詣が王府の公事になった事や、1671年に宜野湾間切が新設された事により参詣道および宿道として整備されたと考えられています。その後、尚貞王の長男(尚純)が宜野湾間切に仮住まいした際(1706年より前)に、普天間から浦添の後方まで松を植えさせ1958年に最後の1本が切り倒されるまで、立派な松の並ぶ道でジノーンナンマチ(宜野湾並松)とも呼ばれていました。

宜野湾市全域図

嘉数ティラガマ

宜野湾市側の始点は嘉数ティラガマで比屋良川公園に向けてウシヌクスービラを下ります。歩道に沿って松の木が植えられていますが、これは宜野湾並松をイメージしているそうです。歩道橋を渡り県道241号線より東側にあった参詣道を通り佐真下へ向かいます。普天間飛行場ができるまで参詣道は字宜野湾、字神山、字新城を通り普天間宮まで続いていました。その道沿いには松並木が茂り、夏には木陰と涼しい風を提供しマーチバー(松葉)やマーチカサー(松笠)はタムン(薪)の材料の一つに使われました。また、昭和6年には国の天然記念物に指定されました。

その大部分が普天間飛行場の敷地となったためか、普天満参詣道の痕跡はなかなか見つかりませんが、普天満宮に一端を見る事ができます。鳥居の下の石畳道は沖縄戦や工事等の影響を受けておらず、当時のままではないかと考えられます。

どこかで「歴史の道」の痕跡を見つけたら文化課までぜひご一報ください。

普天満宮

鳥居の下に残る石畳道

問 文化課 ☎893-4430